

1年生 地域国際交流

地域国際交流は、1年生で行うグローバル・スタディーズの中心として位置づけられている。その目的は、日本の高校生は「内向き志向」で国が推進する留学プログラムにも消極的であるとの動向から、身近な地域に在住する外国人と交流することで外国人との接し方や考え方などを学ぶために取り入れられている。さらに、多文化共生を学ぶために水戸市や近郊地域の抱える諸問題（環境、特産物の開発、観光開発、行政サービス）を外国人と同じ目線で考え、解決する手段を導き出す課題探求型学習にもなっている。今年で3年目を迎える地域国際交流には、水戸市内在住の外国人として中国、韓国、フランス、フィリピン、エチオピア、ポーランドなど出身国のことなる外国人が継続して参加している。期間は、6月に2回、9月に2回の外国人ゲストとのディスカッションを行い、フィールドワークや課題解決のための実践活動を行って2月に成果報告のためのプレゼンテーションを行う。

大学生がゼミで行っている研究に勝とも劣らない研究成果が毎年プレゼンテーションされている。

6月5日（火） 第1回目の地域国際交流が行われました。

1年生にとって長い時間外国人と1つのテーマで話し合うのは初めての経験となりました。外国人と同じ目線で、各テーマに沿って問題を見つけるのは苦労したようです。自己紹介の時も緊張した様子が伝わってきました。



6月19日（火） 第2回目の地域国際交流が行われました。

各グループとも外国人ゲストと一緒にテーマの研究内へとディスカッションを進めたようです。この日は、茨城新聞の取材がありました。新聞記者の向けるカメラにいつも以上に緊張していました。また、何人かの生徒が記者からインタビューを受けました。また、中国人の英さんが民族衣装を持ってきてくれました。外国人と交流し、民族衣装を着る機会があるのはグローバルコースだけです。



9月4日（火） 第3回目の地域国際交流が行われました。

夏休み明け間もない時期でしたが、各グループでは夏休み中に研究を進めていたようで、以前に比べてスムーズにディスカッションが進んだようでした。研究の方向性をまとめて次回はミニプレゼンテーションがあるので各グループとも熱が入っているようでした。また、ディスカッションの合間に先生方が準備してくれた飲み物やお菓子を食べながらのコーヒーズでは、親しくなった外国人と色々な話題で盛り上がっていました。



9月18日（火） 第4回目（最終回）の地域国際交流が行われました。

最終回の4回目は、各生徒とも外国人と話をすることに慣れ、自分の考えを上手に相手に伝えるスキルを習得したようです。また、グループに参加している外国人ゲストだけでなく、他のグループに参加している外国人にも積極的に話しかけてテーマについての意見を聞いたりインタビュー調査をしている生徒もいました。数多く外国人と接触することで、外国人とのコミュニケーション力が上達しました。最後に4回のディスカッションをまとめたミニプレゼンテーションを行いました。外国人ゲストの皆さんには審査員をお願いしました。それぞれ高評価を得たようです。



